

このプログラムは、みえない方、みえにくい方のために必要な説明を加えている読み上げ対応用の文字プログラムです。表紙には、今回の演奏会のテーマ、「音楽の動物園にオーケストラと出かけよう」にちなんだ象や、ライオン、パンダなどのイラストが描かれています。

Music Program TOKYO
Workshop Workshop! コンビビアル・プロジェクト

東京文化会館 リラックス・パフォーマンス 世代、障害をこえて楽しめるコンサート

実施日 2026年(令和8年)6月14日(日曜日)

時間 午後3時から午後4時まで、休憩なし

会場 たましん RISURU ホール(立川市市民会館) 大ホール
※会場は東京文化会館ではありません。

東京文化会館リラックス・パフォーマンスへようこそ！

リラックス・パフォーマンスの「リラックス relaxed」は“寛容な”という意味。

少しおとをたてても、からだが動いても、大丈夫。

発達障害や自閉症などでホールでの音楽鑑賞に不安がある方も、耳のきこえない方やきこえにくい方も、一緒に音楽を楽しめるように、様々な工夫をしています。

たとえば…

どなたでも安心して楽しんでいただけるよう、以下の鑑賞サポートがあります。

- 受付に手話通訳者がいます。舞台上にろうナビゲーターがいます。
- 客席の照明を完全に暗くしません。
- 上演中に休憩が必要になった場合は、客席の外に出て休憩できます。途中で席に戻ることもできます。
- 自席に戻りづらい場合や、一時的に席を移動したい場合などにお座りいただけるフリーエリアが客席にあります。
- 気持ちを落ち着けたい方のためのカームダウンスペースがあります。
- ヒアリンググループ(集団ほちょうシステム)、おとを振動に変換するツールや字幕タブレット、視覚を支援するツール(レティッサオンハンド)、イヤーマフやフィジエットイの貸し出しがあります。点字・拡大文字・白黒反転の曲目リストの用意があります。

(鑑賞サポートの説明終わり)

ご注意ください

1. ホールの中では食べたり飲んだりできません。
2. 公演の写真撮影、録音、録画はできません。
3. 携帯電話やアラーム付き腕時計などはおとの出ない設定にしましょう。

コンサートを楽しむために

1. コンサートが始まる前にトイレに行っておきましょう。
どうしてもトイレに行きたくなったら、他の人のじゃまにならないように、そっと行きましょう。
2. 演奏している間は座りましょう。
演奏の途中で休憩が必要になったら、そっと客席の外に出ても大丈夫です。
3. ステキな演奏には拍手をしましょう。
演奏が終わった時に、たくさんの拍手をしましょう。

(コンサート中の過ごし方を終り)

プログラム

1. チャイコフスキー作曲
バレエ組曲『白鳥の湖』より 情景、ワルツ
2. アンダーソン 作曲
そりすべり
3. ロッシーニ作曲
オペラ『ウィリアム・テル』序曲より 「スイス軍の行進」
4. リムスキー＝コルサコフ作曲
くまばちの飛行
5. サン＝サーンス作曲
組曲『動物の謝肉祭』より 第 5 曲 「象」
6. ストラヴィンスキー：バレエ組曲『火の鳥』(1919 年版)
より
第 5 曲 「魔王カステイの凶悪な踊り」
第 6 曲 「子守歌」
第 7 曲 「終曲」

(プログラム終わり)

出演

指揮：そのだ りゅういちろう

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

ナビゲーター：つかもと えりこ

（東京文化会館ワークショップ・リーダー）

ろうナビゲーター：

にしわき しょうご

（出演者終わり）

曲目解説

今日のコンサートでは、元気なリズムや、流れるように美しいメロディーが登場する名曲を、オーケストラの演奏でたっぷりとお楽しみください。

1. チャイコフスキー作曲

チャイコフスキー：バレエ組曲『白鳥の湖』より 情景、ワルツ

「白鳥の湖」は、悪魔の呪いで真っ白な白鳥の姿に変えられたオデット姫と、彼女に恋をした王子との物語です。〈情景〉は、二人が愛を誓う場面を描く名曲で、オーボエがやさしくせつない旋律を歌います。〈ワルツ〉は王子の誕生パーティーで流れる、華やかな3びょうしの音楽です。チャイコフスキー(1840～1893年)が作曲した最初のバレエ音楽です。

2. アンダーソン 作曲

そりすべり

雪の中をそりが軽やかに走るようすをいきいきと描いたこの曲は、アメリカの作曲家アンダーソン(1908～1975年)が作曲しました。心おどるメロディーにのって、馬をムチで走らせるおとも聞こえてきます。曲の終わりにはトランペットが馬のいななきをあらわす、ユニークで楽しいオーケストラ曲です。

3. ロッシーニ作曲

オペラ『ウィリアム・テル』序曲より「スイス軍の行進」

次も、馬がさっそうと駆けていくようなリズムカルな音楽です。19世紀イタリアを代表する作曲家ロッシーニ(1792~1868年)のオペラ『ウィリアム・テル』は、弓の名人テルが悪い支配者に立ち向かうお話で、息子の頭の上のにのせたリンゴを撃ち抜くシーンが有名です。序曲とは、オペラが始まる前にオーケストラが演奏する音楽のこと。「スイス軍の行進」は、トランペットの高らかなメロディーで始まります。

4. リムスキー＝コルサコフ作曲

くまばちの飛行

今度は小さなくまばちの登場です。魔法で「くまばち」に変身した主人公の王子が、元気よく飛び回るシーンの曲です。ヴァイオリンやフルートが、スピーディーにメロディーを演奏し、蜂がブンブンと音を立てて飛ぶようすをいきいきと描きます。ロシアの作曲家リムスキー＝コルサコフ(1844~1908年)のオペラ『サルタン皇帝』の一曲です。

5. サン＝サーンス作曲

組曲『動物の謝肉祭』より 第5曲「象」

組曲『動物の謝肉祭』は、フランスの作曲家サン＝サーンス(1835~1921年)が1886年につくった、動物たちをユーモラスに描いた14曲からなる作品です。第5曲「象」では、オーケストラの中でいちばん大きくて低い音が出る弦楽器、コントラバスが主役。ゆったりと重みのあるメロディーが、大きな体をのんびりと動かす象のようすを描きます。

6. ストラヴィンスキー:バレエ組曲『火の鳥』(1919年版)より

第5曲「魔王カスチエイの凶悪な踊り」

第6曲「子守歌」

第7曲「終曲」

最後の曲は、ロシアに伝わる古い民話に基づく物語にストラヴィンスキー(1882~1971年)が音楽をつけたバレエ『火の鳥』の組曲から、3曲をお届けします。魔王カスチエイに捕らわれた王女と、怪物に捕まった王子。そこへ、かつて王子に命を救われた火の鳥が現れ、魔王を滅ぼすというストーリー。「凶悪な踊り」はバレエのクライマックス、「子守歌」はしずかな美しさ、「終曲」はふたりの幸せな結末を輝かしくえがきます。

(曲目解説終わり)

出演者プロフィール

指揮: そのだ りゅういちろう

2006年、シエナのキジアーナ夏季音楽週間《トスカ》を指揮してデビュー。翌年、藤原歌劇団《ラ・ボエーム》を指揮して日本デビューを果たす。同年夏にはペーザロのロッシェニ・オペラ・フェスティバル《ランスへの旅》を指揮、その後もジェノヴァかげきじょう、フランダース・オペラをはじめ、フィレンツェのトスカーナ管弦楽団、カタールニアのベッリーニ大劇場管弦楽団の演奏会を指揮。その後国内外のオペラへの出演、オーケストラとの共演を重ねている。

2026年は日生劇場《ドン・ジョヴァンニ》、パシフィックフィルハーモニア東京定期演奏会などへ出演を予定している。

第16回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第73回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

パシフィックフィルハーモニア東京 指揮者。藤沢市民オペラ芸術監督。

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミヨンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。自主公演、新国立劇場他でのオペラ・バレエ演奏、NHK 他における放送演奏、海外公演等で注目を集める。Bunkamura オーチャードホールとフランチャイズ契約を締結。文京区、千葉市、軽井沢町、長岡市と事業提携を、刈谷市と連携協定を結んでいる。

<https://www.tpo.or.jp/>

ナビゲーター：つかもと えりこ(東京文化会館ワークショップ・リーダー)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学大学院修士課程オペラ科修了。

BS フジ「ポンキッキーズ」第11代目歌のおねえさんを務める。

子どもの歌から、オペラ、ミュージカル、司会、ナレーター等、多彩な表現で音楽交流を実践。

全国学校公演や0さいからのオーケストラコンサートなどで歌唱やナビゲーターを務める。

「くちびるに歌を心に太陽を」をモットーに、子どもたちに音楽の楽しさと学ぶ喜びを伝えている。特技はなわとび。

(出演者プロフィール終わり)

東京文化会館の取り組みについて

東京文化会館ではあらゆる人が音楽で交流できる社会をめざしており、アートによる多元共生社会の実現に向けて、アートが持つ「創造性」「協調性」「参加性」を活かし、社会的課題に向き合いながら、人々の生活の質(QOL)の向上や共生社会実現につながる様々な取り組みを行っています。年齢や障害、社会的ハンディキャップのあるなしにかかわらず、あらゆる人々が音楽鑑賞や音楽創造体験に参加できる機会の提供や、多くの人々が新たな文化創造に主体的に関わることができる環境の整備に向けた取り組みを大切にしています。

Music Program TOKYO

世界的な芸術文化都市東京として、音楽文化の活性化を目指し、「創造性」と「参加性」を柱とした多様な事業を年間を通して一体的に展開する音楽プログラムです。クラシック音楽を

基軸にしつつ、様々な分野のアーティストや文化施設等と連携して多彩な公演を実施する《Enjoy Concerts!》、海外の芸術機関や国内外の教育・社会福祉機関等と連携した《Workshop Workshop!》、そのほかの教育普及プログラムを《Music Education Program》として開催することで、東京の音楽文化に刺激を与え、世界に向け発信していきます。

(東京文化会館の取り組み終わり)

主催:東京都／東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)

共催:公益財団法人立川市地域文化振興財団

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業))

独立行政法人日本芸術文化振興会

一般財団法人地域創造

※本事業は、クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーの一環で実施しています。